

# 風水害に備えて事前の対策を

# 台風や集中豪雨が多く発生する季節です

9月1日は「防災の日」。今から91年前の1923年（大正12年）に関東大震災が起きた日です。また、この時期は台風や発達した雨雲の影響で大雨が降りやすく、毎年、全国各地で被害が発生しています。

問い合わせは 危機管理室 ☎027-898-5935



## 市内の災害危険箇所を知りましょう

4月に配布した「前橋市総合防災マップ」には、利根川などの河川が氾濫した場合などの浸水想定や、土砂災害危険区域を色分けして分かりやすく記載してあります。自宅や通学路などに危険が潜んでいないか、必ず確認してください。

## 避難情報は防災ラジオでも放送

災害の発生危険度ごとに、「避難準備」「避難勧告」「避難指示」を市から



防災訓練ではアドバイザーが助言

市民の皆さんに呼びかけます。これらの情報は防災ラジオでも放送しますので、情報収集手段の一つとして、準備を。購入方法は問い合わせください。

## 防災アドバイザー

市には、自衛隊や気象庁出身の職員が「防災アドバイザー」として勤務しています。それぞれの専門的立場から防災について市にアドバイス。防災アドバイザーは、皆さんの町などに掛け、自主防災活動などを学んでもらう、防災出前講座の講師としても活躍しています。人口の多い町、繁華街にある町など、住んでいる地域によって自主防災会の活動はさまざま。それぞれの町の特性に見合ったアドバイスをします。詳しくは問い合わせください。



出前講座で自主防災を学ぶ

## 防災アドバイザーからの一口メモ

**■ 自助と共助**  
震災時、がれきの下から救出された人のうち約8割が、家族や近所の住民に救出されたという報告があります。地域で支え合う関係づくりが、被害を最小限に食い止める大きな役割を果たします。自身の「備え」と「助け合い」で地域の安全を守りましょう。

## 非常用持ち出し品の準備の「コツ

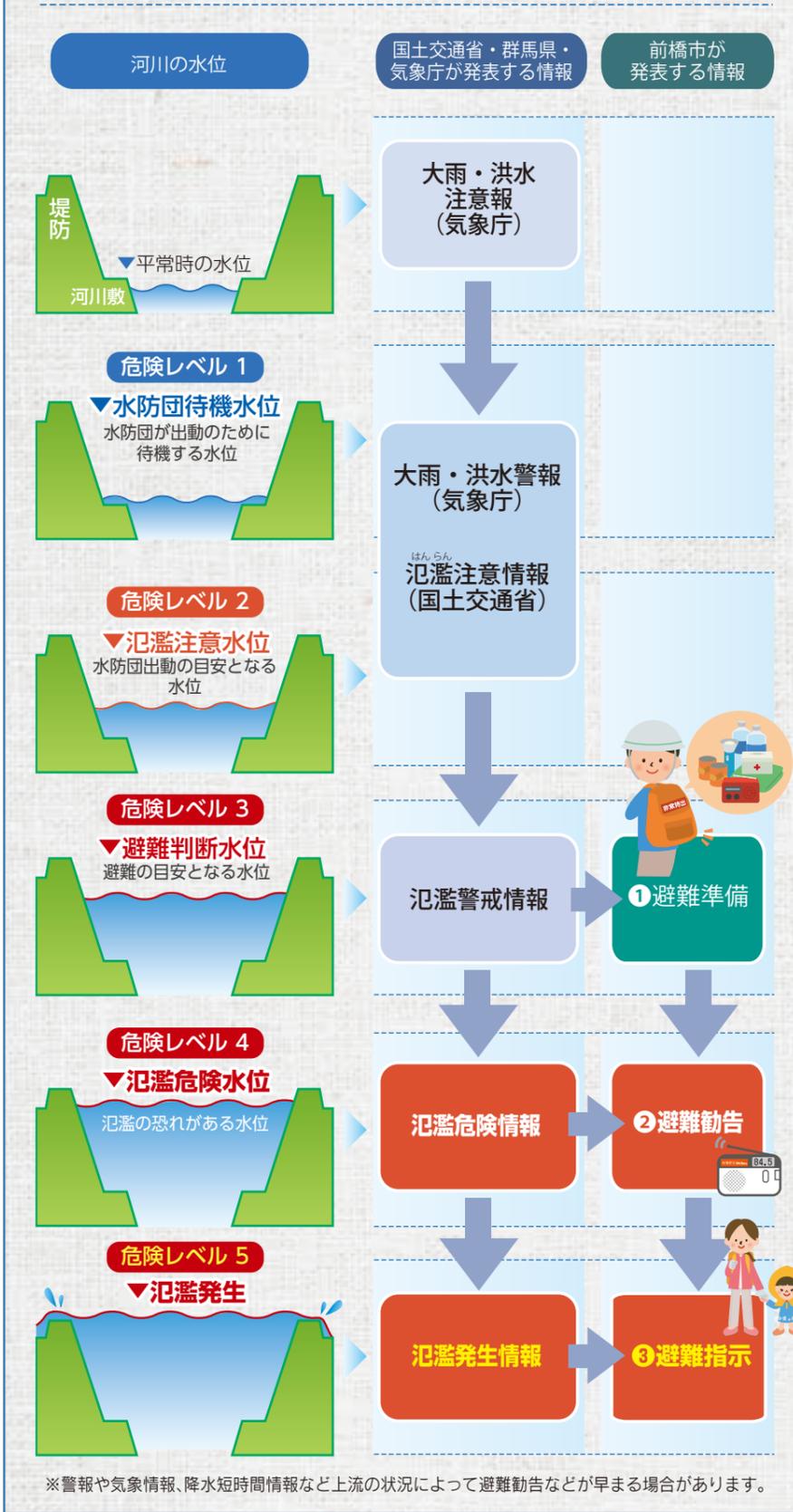
非常用持ち出し品は「あれば便利なもの」より先に、3日分の食料や飲料水、トイレトペーパー、衣類などのほか、常備薬、応急用品、筆記用具、貴重品類など「無ければ困るもの」を常にまとめて身近に用意。リュックなどに入れておけば、いざ

## いざというときに人が人を運ぶ

物干しざお2本に2〜3着分のTシャツやトレーナーの袖の部分をとおしたり、毛布を巻いたりすれば即席の担架に。また、平らな場所なら毛布やシートを下に敷いて引っ張れば、1人で人が人を移動させることができます。

前橋市総合防災マップの6ページに記載されている水位情報は下図のとおり変更になりました。本紙と合わせて保管し、活用してください。

## 水位情報と用語の解説



### 3 避難指示

急を要するときに、市長が必要と認める地域の人に、避難のための立ち退きを指示します。対象地域の人で避難しそびれた人は、速やかに避難してください。

### 2 避難勧告

市長が、必要と認める地域の人に、避難のための立ち退きを勧告します。屋内の安全も合わせて確保してください。

### 1 避難準備

市長が、必要と認める地域の人に、避難のための立ち退きを準備してもらうために発表します。対象の地域の方は、気象情報に注意を払い、避難の必要性を検討してください。避難が必要と考えられる場合は、その準備をしてください。